

井戸商店社長
井戸 和彦氏

夏前には底打ち、最高値狙う

目先は下げトレンドになりそうだが、夏前には底打ちし、その後は最高値を狙っていくのではないかと。相場レンジはLME現物で8800-11000あたりか。

欧州諸国の金融不安や中東情勢など、世界経済の重しとなる要因が複数くすぶり、銅需要にとって恵まれた環境ではない。ある程度しっかりと下げてからでなければ、再び1万が台を回復するのは難しいだろう。

COMEXで4000に当たる8800あたりまでの下げはやむを得ない。中国の追加金融引き締めや、欧州、中東の極端な動きが重なれば、8000ポラインまで下げることあり得る。

ただ、6月以降も米国の量的緩和(QE)が継続する可能性があるとみており、こうなると非鉄金属に投資資金が集まりやすい。しっかりと下げた後は高値を狙っていくだろう。為替(TTS)は1ドル80-90円レンジ。銅建値は75万-92万円あたりで推移しそうだ。

銅

原油高響き8000ドル割れも

上半期の銅相場は下げ基調とみる。中東の情勢不安を背景とした原油高は世界経済にとって重しで、中国のけん引力も以前ほど期待できない。LME現物で8000が割れも考えられる。リビア問題などで原油相場は高水準で推移している。福島第1原発の放射能漏れ事故の影響で、世界的に原発離れが進めば、さらに原油相場を押し上げる要因になりかねない。これまで資源需要を牽引してきた中国は金融引き締めで頭打ち状態。

原油高、中国の利上げを材料に、銅相場は頭が重いだろう。LME相場は足元9500

ぶ前後の水準にあるが、今後は8500-9000ポラインに一段安推移するのではないかと。米国の住宅関連指数の悪化などが重なることがあれば、8000ポを割ってもおかしくない。

為替(TTS)は一時1ドル80円を突破したが、これは極端な動き。日本は震災のダメージが大きく、80円台後半まで円安が進行する可能性がある。

マエダ総業社長
前田 利正氏橋本金属取締役
橋本 健一郎氏

震災復興注視、9000—1万ドル推移

銅相場はトン9000-1万で推移。以下3点に注視する①原発問題を含む日本の復興時期②中国の金融・格差対策③欧州懸念と米景気回復度合い。

①震災で製造業は西日本での代替生産などの計画があるが、現在は最終製品まで行えるか不明。復興需要が出るのは夏季の電力問題を解決した今下期。上期は国内需要後退を予測する。

②中東デモの引き金となった格差問題は、中国当局も警戒を強めている。土地・食糧への資金流入に注視しており、今後も継続・長期的な金融引き締めが続く。一方で格差是正のため内陸部でのインフラ整備も急務で、9000ポを割れば中国筋の買いが入る。

③欧州は欧州中央銀行(ECB)による救済策ができており市場はさほど危機感を持っていない。また昨年第4四半期の米国内総生産(GDP)が3.1%増と予測を上回るなど、回復基調にあり底値は堅い。

銅